

# ルビ

佐藤 健治

kenjisato.jp

2021 年 3 月 22 日

八登崇之氏<sup>やとうたかゆき</sup>による **pxrubrica** パッケージ<sup>もち</sup>を用いてルビおよび<sup>けんでん</sup>圈点<sup>りよう</sup>を利用したサンプルです\*<sup>1</sup>。このドキュメント<sup>さくせい</sup>の作成には **LyX** を使用<sup>し</sup>しました。**pxrubrica** パッケージ<sup>べん</sup>を便利<sup>り</sup>に使うためのカスタムモジュール **pxrubrica.module** を GitHub レポジトリ **kenjisato/lyx.local** で公開<sup>こうかい</sup>していますので、インストールして利用<sup>りよう</sup>してください。カスタムモジュールのインストール方法は公式ドキュメント<sup>ほうほう</sup>をご覧ください。上<sup>じょう</sup>記<sup>き</sup>レポジトリ<sup>り</sup>のトップにも記載<sup>きざい</sup>しています。なお、この資料<sup>しりょう</sup>のソースファイルは前述<sup>ぜんじゆつ</sup>のレポジトリの **demo/ruby.lyx** です。

ルビのオプションの振る舞いについては、**pxrubrica** パッケージのドキュメントを確認してください。オプションを使った例は次のようなものです\*<sup>2</sup>。

- `\jruby[g]{も百舌鳥ず}{ももず}` : 百舌鳥
- `\jruby[j]{も百舌鳥ず}{ももず}` : 百舌鳥

和文両側ルビ、欧文両側ルビの Flex Inset も一応用意していますが、使用頻度が少なく邪魔に感じる人が少なくなさそうなので、そのうち別モジュールに分けるかもしれません。和文両側ルビの使用例です\*<sup>3</sup> : 北京<sup>ぺいきん</sup>、百済<sup>くだら</sup>  
ベイジン ベクチェ

## 注意

生成される **LaTeX** のソースコードに関する注意点です。**pxrubrica** パッケージの `\ruby` (あるいは `\jruby`)、`\aruby` コマンドは、次の形式で使用されます。

`\*ruby[<オプション>]{<親文字>}{<ルビ文字>}`

**LyX** で Flex Inset を折りたたんだときに表示されるのは最後のパラメータなので\*<sup>4</sup>、編集するときには最後のパラメータが親文字である方が望ましいです。そこで、**pxrubrica.module** では、パラメータの順序を入れ替えたコマンド

`\*rubySwap[<オプション>]{<ルビ文字>}{<親文字>}`

を定義しました。生成される **LaTeX** コードを汚してしまうのですが、編集上の便利さを選択しました。

---

\*<sup>1</sup> 八登崇之「**pxrubrica** パッケージ」v1.3d (2021/03/06), <http://tug.ctan.org/language/japanese/pxrubrica/pxrubrica.pdf>.

\*<sup>2</sup> オプション入力欄を出すには、**Ctrl+A** を入力した後に **1** を押す。

\*<sup>3</sup> 組版コラム Dr. シローの覚え書き, 259. 両側ルビより (2021 年 3 月 19 日閲覧)。

\*<sup>4</sup> **ContentAsLabel** は真に設定されています。